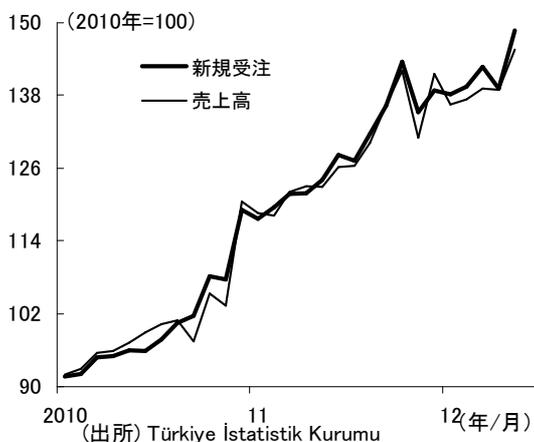


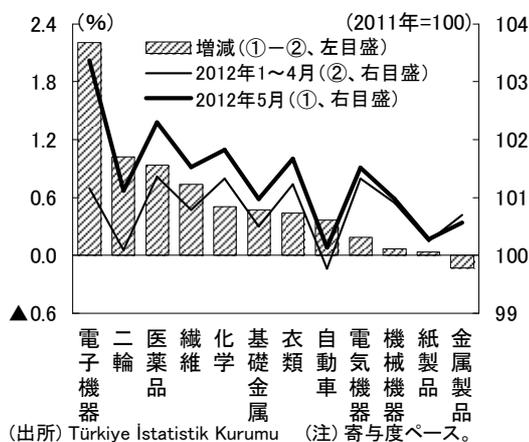
トルコ底入れの兆し ～ 製造業受注が大幅増 ～

- (1) トルコ経済に持ち直しの兆し。製造業売上高は昨秋来の一進一退から今春、増勢回復へ（図表1）。季節調整を施すと本年5月の製造業売上は前月比4.8%増。さらに製造業新規受注では本年5月、季調済前月比6.9%と大幅増に。欧州危機とインフレで減速してきた同国経済が底入れし、回復に向かう展開が視野。
- (2) そこで製造業新規受注を業種別にみると、これまで同国経済成長を牽引してきた自動車や電気機器の伸びは限定的（図表2）。なお前期比など単純比較は業種毎の規模の違いを無視するため、産業別ウェイトを掛け、比較可能な寄与度ベースに修正。最大の牽引役は電子機器で本年1～4月期から5月では全体を2.2%押し上げ。次いで二輪など、自動車以外の輸送用機械と医薬品がそれぞれ同1.0%ずつ押し上げ。
- (3) 電子機器はタブレット型端末の拡がりを映じた動き。一方、二輪の増加はまず国内需要の盛り上がり。従来、同国では二輪の低迷が続くなか、四輪販売が急拡大。インタムールやイズミルなど都市圏が主導する経済成長で中高所得層が増加して自動車市場が成長するスタイル。一方、相対的に所得水準が低く、多くの新興国で二輪販売を牽引する地方圏経済は長らく低迷。しかし、同国でも近年、地方圏経済の離陸が全土に広がるなか、漸く二輪市場でも成長始動（図表3）。
- (4) さらに外需が力強い増勢に（図表4）。ドイツやフランスなど欧州各国向け輸出の低迷で一昨年来、輸出は緩やかな増勢。しかし情勢沈静化に伴う中東向け輸出の盛り上がりと同国輸出を牽引。緩やかな国内景気を投影して輸入が一進一退で推移するなか、輸出急増で実質貿易赤字は本年5月大幅に減少し、外需が成長寄与。財別には消費財や資本財でなく、部品など中間財が製造業売上や新規受注増を牽引。生産拠点化が進行。リラ安にも後押しされ、底堅い成長持続の公算大。

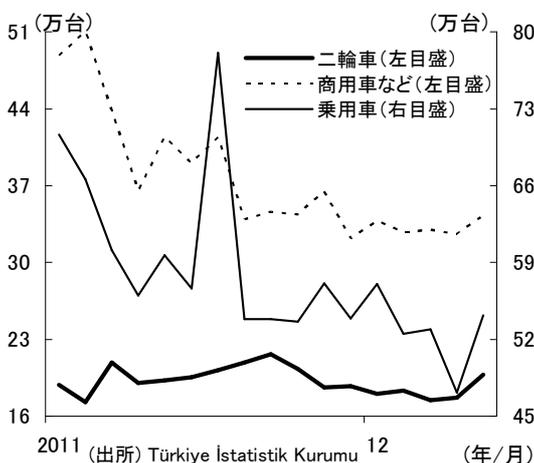
（図表1）トルコ製造業の売上高と新規受注（季調済）



（図表2）製造業業種別新規受注（季調済）



（図表3）二輪車、自動車登録台数（季調済年率）



（図表4）実質貿易赤字と実質輸出入（季調済）

